

第 3 学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 短い言葉で、自分の考えや思いを話せたり、書けたりできるようになった。
 - 自主的に読書に取り組む児童が増え、いろいろなジャンルの本に触れるようになった。
 - 根拠となる文から登場人物の気持ちを読み取れる児童が増えた。
- 課題**
- ▼ 語彙量が少なく、文章の意味を理解して読むことが不十分である。
 - ▼ 話を聞く時に、適切に大事な部分を捉えて学びに生かすことが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えながら、話したり聞いたりする力
- ◇ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文章を書く力
- ◇ 時間的な順序や事柄などを考えたり、場面の様子や登場人物の行動などを想像したりし、内容の大体を捉えながら読む力

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- コグトレや書写の活動を通して、手首や指先のスムーズなコントロール、字形を正しく捉える練習をする。
- 学校図書館で幅広いジャンルの図書資料を読んだり、国語辞典を活用して語彙の意味を調べたりして、場や状況に応じて語彙を使いこなすことを身に付けていく。

言語活動の工夫

- 短作文等の活動を通して、自分の考えを文章にして書き表していけるように、経験を積み重ねていく。

ICT活用の工夫

- 読書に親しんで知識や感性を豊かにし、タブレットを活用して調べる学習を行ったり、考えを共有したりする。

課題解決力育成の工夫

- 自分の考えや感想に自信をもって発言したり、相手の話をじっくりと聞き、話を受けてさらに考えたことを言葉にしたりする経験を繰り返し実践していく。

達成目標

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。